

年頭にあたって
平和の種をまく

藤原聖帆 (新聞委員長)

「平和の種をまく」というキャッチコピーを掲げる東京 Y W C A。昨年はどれくらいまくことができただろうか。

2015年は第二次世界大戦終結から70年という節目の年であった。いまだ各地で戦争が絶えない中、日本は憲法9条のもとで戦争をせずに70年目を迎えることができた。しかし、政府は戦争に参加できる道を着々と整えている。これに反対する老若男女がデモに参加し、反対の声を上げる姿は、22年生きてきた私には初めての光景であった。だが、安倍内閣は国民の意見を無視し続けている。

この異常事態に東京 Y W C A (以下 Y と表示) は反対の立場を崩さず、原子力発電所の再稼働、辺野古基地移設にも反対である。日本中の Y がさまざまな形でこれらの問題に対して反対の活動を行っている。個人では不可能でも組織として変革の嵐を起こすことは可能だ。

この Y の強みを昨年強く感じたのは、世界 Y 総会に派遣されたことにある。4年に一度の世界 Y 総会がタイのバンコクで開催され、70カ国以上、500人を超えるメンバーが集結した。

最も注目された議題は「エンビジョニング2035年」。Yにおいて初めて世界共通の目標を20年後に向けて掲げたのである。「2035年、1億人の若い女性と少女が、正義とジェンダー平等を実現し、暴力・戦争のない世界をつくるため権力構造を変革し、すべての女性にインクルーシブで持続可能な Y 運動を先導します。」というのが20年先の大枠のゴールである。特に、「暴力・戦争のない世界をつくる」という文言は日本が提案、追加したものである。憲法9条を守ってきた日本だからこそこの提案であり、世界の Y が同じ方向を向く指針になったといえることができる。

さらに、日本 Y と韓国 Y は核問題のワークショップを共催。「核兵器／原子力エネルギーを同等に否定する」決議案を提出し可決された。これにより、核兵器のみならず原子力エネルギーにも、世界中の Y が反対の立場に立ち、行動する仲間が世界規模で増えたことは大きな成果であった。

世界Yは2035年、20年先に向かって歩み始めた。それは1日、1週間、1カ月、1年の積み重ねである。東京Yが110年積み重ねてきた運動も同様である。過去の積み重ね無くして今はない。今年1年もまた未来へつなげる積み重ねとなるように活発に運動を行い、平和の種を未来に向けてまき続けていきたい。その運動を持続可能なものにするためには、若い女性(世界Yの規定30歳以下)の活躍が要であると、世界Yでも大きな課題とされている。東京Yでも重点課題になっているが、平和を実現し、未来へつなげるためにも、東京Yのそして世界Yの会員である私たちは手を取り合い、共に歩んでいきたい。「平和の種をまく」私たちは世界に向かって種をまき、2035年に向けて運動し続けていきたい。